

第24回 鴨観会・生命分子化学科セミナー

ナー

《講師》

原田 陽介 先生（東京理科大学 生命医科学研究所）

《演題》

抗体産生を調節する新しいT細胞サブセット
、濾胞性ヘルパーT細胞の役割

《日時》 12月12日(金)午後6時から

《場所》 京都府立大学3号館3階会議室

《講演内容》

T細胞依存的な抗体産生にはヘルパーT細胞によるB細胞のヘルプが必要である。これまではこのT細胞からのB細胞ヘルプに対して中心的な役割を担っているのは主に2型ヘルパーT細胞(TH2)と考えられてきたが、近年、B細胞をヘルプする新たなヘルパーT細胞サブセットとして濾胞性ヘルパーT細胞(TFH)が同定された。TFHはTH2細胞と違いB細胞領域に局在しB細胞と持続的な相互作用を行う。この際、TFH細胞はサイトカインや細胞表面分子を介して、B細胞の増殖や抗体のクラススイッチ、体細胞突然変異を誘導する。TH2細胞が主に産生するIL-4は、B細胞に作用してIgG1やIgEへのクラススイッチを誘導する重要なサイトカインであるが、TFH細胞も同様にIL-4を産生する。我々はこのTFH細胞からのIL-4産生をコントロールするエンハンサー領域を同定することで、IgEのクラススイッチがこれまで考えられてきたTH2細胞から産生されるIL-4よりもむしろ、TFH細胞からのIL-4が重要であることを明らかにした。

本セミナーでは、TFH細胞の役割を最近の知見に基づいて概説するとともに、我々の研究成果の一部についてもご紹介したい。

《連絡先》

織田 昌幸（生命物理化学研究室）

E-mail; oda@kpu.ac.jp, Phone; 075-703-5673